

フジテック「エレベータ研究塔」 解体工事のお知らせ フィールド拠点「ビッグフィット」再構築に向けて

フジテック株式会社(本社:滋賀県彦根市 社長:内山高一)は、大阪府茨木市の旧本社敷地内に建つ「エレベータ研究塔」の解体工事を、9月22日(月)より開始いたします。地上150mの「エレベータ研究塔」は、1975年(昭和50年)9月に完成し、当時はエレベータの研究施設として、世界最大の高さで規模を誇るものでした。2006年4月、本社が滋賀県彦根市に移転し、新しく地上170mの世界最大級を誇るエレベータ研究塔を建てましたが、それまで33年間の永きにわたり、地元のランドマークとして多くの方々に親しまれてきました。解体工事に先立ち、9月21日(日)午前11時から、茨木市関係者、近隣代表を招き、「エレベータ研究塔さよならセレモニー」を執り行います。

「エレベータ研究塔」の概要

フジテック旧本社敷地内に建つ「エレベータ研究塔」は、地上150m、直径が10mで、中には5台のエレベータを設置しており、エレベータの研究施設として、世界屈指の規模を誇っていました。設置後、30年以上にわたり、エレベータ研究開発の最前線に立ち、数多くの独創的な先進技術を創み出しました。

研究塔が完成した翌年1976年(昭和51年)には、世界に先駆けて分速600mの超高速直流ギヤレス・エレベータを開発しました。その後、マイクロコンピュータ制御方式、インバータ制御方式のエレベータを次々と創み出すとともに、2001年(平成13年)には、上下のかご間隔を自動的に調整する世界初のダブルデッキ・エレベータを開発するなど、エレベータ業界に数多くの革新をもたらしました。



地上150mの「エレベータ研究塔」と、旧本社社屋

解体工事は、エレベータ研究塔全体を養生メッシュシートで覆った後、650トンの巨大クレーンを使い、最上階から約3mずつ切断しながら、地上に吊り降ろしていくものです。工事期間は、9月22日から開始し、今年12月末までの予定です。

フィールド・テクニカル拠点“ビッグフィット”再構築に向けて

大阪府茨木市の旧本社は、2006年4月の滋賀への移転に伴い、現在、据付・メンテナンスというフィールド部門での技術向上と人材育成を図るため、「フィールド技術研究所」、「フィールド研修センター」が活動を行っています。

これにより、据付品質、メンテナンス品質が更に高まり、常にベストな状態で商品が維持でき、お客様の信頼と期待にお応えしています。

ここに、モダニゼーション事業本部を始め、遠隔監視センター「セーフネットセンター」、グローバル市場にも対応可能な部品の供給基地となる「部品センター」を集結し、フィールド関連と広域災害の対策拠点“ビッグフィット”として再構築を行います。



フィールド・テクニカル拠点“ビッグフィット”完成予想図

【工事概要】

「エレベータ研究塔」の解体後に建設される新社屋は、延べ床面積10,900㎡、地上5階建てで、1階から4階までは部品センター、および研修センターとし、5階はオフィスとして使用します。

部品センターでは、モータ、インバータ、電気部品など、エレベータやエスカレータに欠かせない部品を数多く保管し、迅速に供給できる体制を確立します。

また、研修センターでは、旧機種から最新機種に至るまで様々な機種での研修に対応できるよう、エレベータ19台とエスカレータ3台を設置します。ここでは、エレベータとエスカレータを使つての実機研修、マシン・かご・ドア開閉装置などの各機器を操作しながらの実技研修を通じて、基礎技術から最新技術までを幅広く習得できる施設となります。

なお、既存社屋は、地上10階建てのオフィス棟として継続使用します。ここでは、これまで大阪市の靱ビルにありました「セーフネットセンター」を今年8月末に移転完了し、東京都港区にある「セーフネットセンター」と共に、24時間監視体制を更に強化しながら、広域災害の対策拠点としての使命を担います。

新社屋の工事は、2009年2月から開始し、2010年2月に完成の予定です。

本件のお問い合わせ先：フジテック株式会社

広報室 東京本社 TEL: 03 4330 8233 FAX: 03 4330 8220

ビッグウイング TEL: 0749 30 6501 FAX: 0749 30 7055

<http://www.fujitec.co.jp>

報道関係者の方に限り、9月21日(日)、大阪府茨木市の旧本社での「エレベータ研究塔さよならセレモニー」への出席を希望される場合は、上記までお申し出ください。